

## 1 ねらい

今般の新型コロナウイルス感染症の拡大や働き方改革、DXの促進により、什器レイアウトのコンセプトとした「ユニバーサルレイアウト」の特性である柔軟性の重要性が増したことから、具体的な什器の選定にあたって、考え方を再整理する。

## 2 検討状況

<これまで>

職員アンケート、フロアヒアリング、職員ワークショップなどを踏まえ、  
令和2年3月に実施レイアウト設計策定・・・原案

<令和3年度>

10月5～15日 職員アンケート（回答者数1,497名）  
11月 8日 第1回什器標準仕様検討委員会  
11月16日 本庁舎等整備推進委員会 分科会調整会議  
12月3、9日 職員説明会（計4回 62名参加）  
12月15日 第2回什器標準仕様検討委員会

## 3 主な再整理内容

### (1) 大型天板のベンチテーブルから、ユニットテーブルへの変更（詳細版P15～）

原案：ベンチテーブル



再整理案：ユニットテーブル



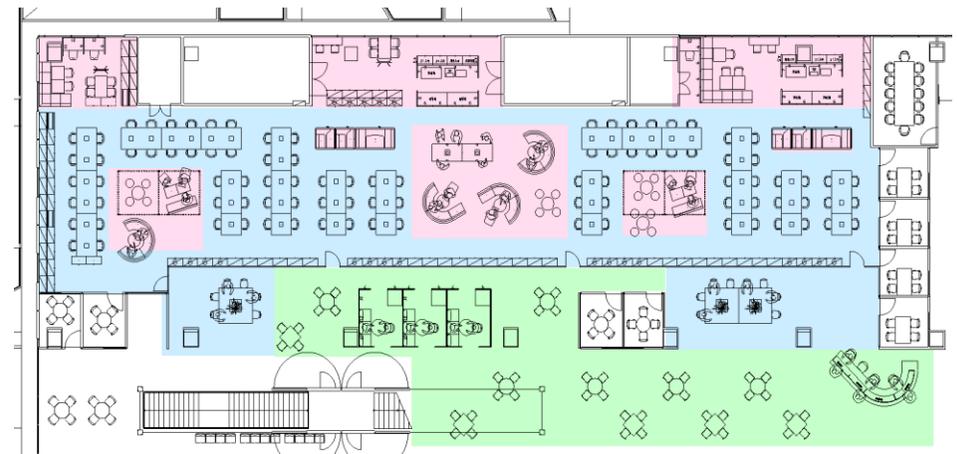
▼レイアウト変更の際に必ず職人の手による施工が伴う

▼部分的変更であれば、大きな施工を伴わず対応が可能

#### ！ 採用するメリット

- ① 移転ローリングを見据えた施工性
- ② 製品コストの低減（VE）
- ③ 障害者対応
- ④ 将来への展開

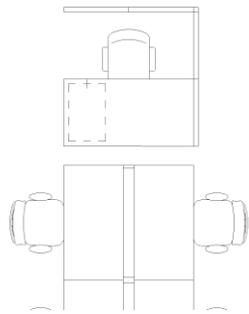
職員数にもよるが、大型天板よりレイアウトの自由度も高い⇒



## 3 主な再整理内容

### (2) 課長席の一般席島型内への配置 (詳細版P21~)

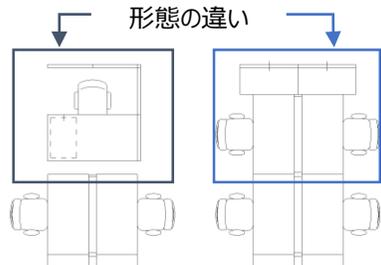
課長席レイアウト (原案)



← 人事情報の扱い等に配慮し、パネルを設置。

← 一般席2席分を活用し、課長席をデスク島から独立して設置。

原案の問題点



課長席を増やす場合、移動させる場合、**収納の移設、什器の購入、施工が必要。**

原案の場合、ユニバーサルレイアウトの**メリット**を活かすことができない。

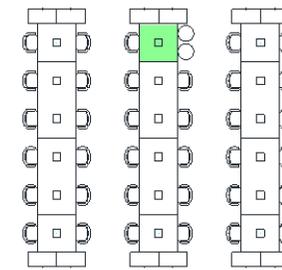
※大きな形態の変化をせず対応すること



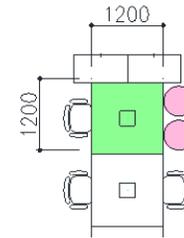
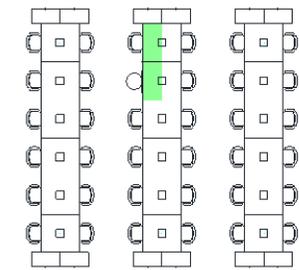
再整理案

課長席として2席分のスペースを使用し、正面または隣に打合せに活用できるスペースを用意する。いずれかの案を選択できる。

A案

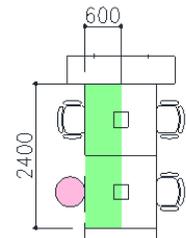


B案



・デスクサイズ : 1200×1200

・打合せ椅子 : 2脚



・デスクサイズ : 2400×600

・打合せ椅子 : 1脚

## 3 主な再整理内容

### (3) 個人用ワゴンからモバイルロッカーへの変更 (詳細版P34~)

**原案** 什器想定：自席の机上面下にワゴンを配置

▼ワゴン

▼現状の机

下段のみA4書類収納可能  
収納量：0.5FM (1人当たり)

**再整理案** 什器想定：自席そばの個人用収納を配置

▼モバイル収納6人用

配線孔  
コンセント

収納量：0.41FM (1人当たり)

×4程度収納可能

+

公文書を入れるキャビネット(3fm/人)

+

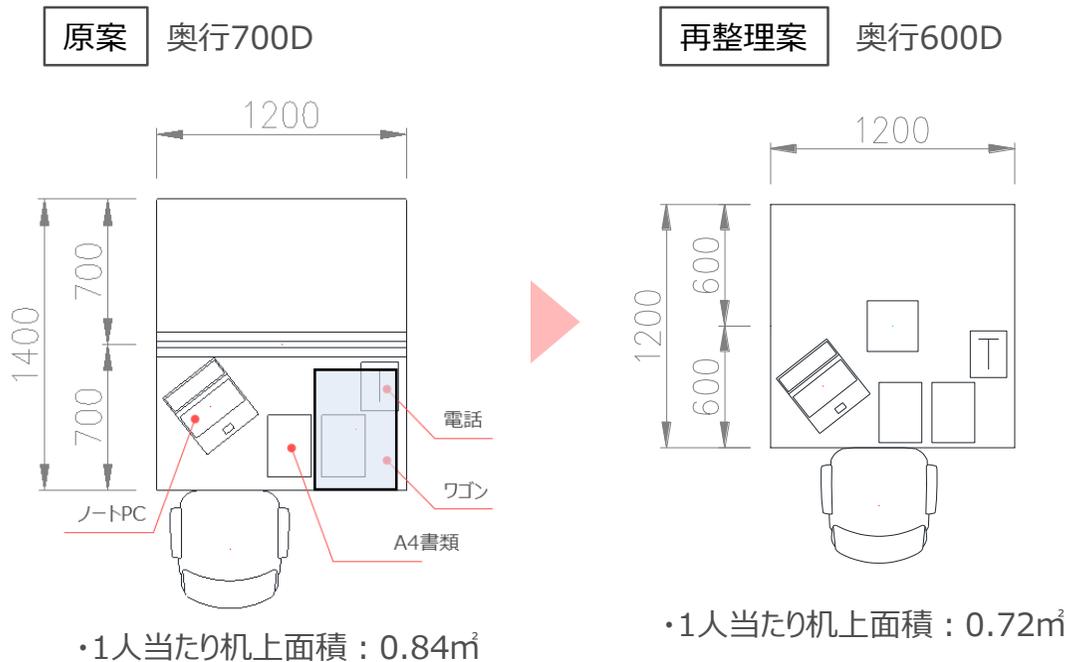
私物を入れるロッカー

#### ! 採用するメリット

- ① 場所にしばられない働き方
- ② 紙をなるべく使わない働き方
- ③ 更なる環境の変化など、将来の変化に柔軟に対応
- ④ 製品コストの低減 (VE)

## 3 主な再整理内容

### (4) 執務デスクの奥行変更 (詳細版P45~)



#### ▼モニターアーム



・業務内容に応じて設置を検討

#### ! 採用するメリット

- ① 机上面積が十分確保できる
- ② スペースを有効活用できる
- ③ 執務室の島を増設できるフロアもある
- ④ 製品コストの低減 (VE)